

2-21-2 金森清水（上山市小穴字小穴沢）

ここは腰田山の山麓で、きれいな清水が湧出している。元禄の頃、金森氏の居館があったと言われ、この地区の人々は、ここを「金森清水」と呼び、今日まで伝承されている。

昭和初期に、地主がこの地を開拓した時、旧住居跡であったことを裏付ける当時の焼き物の生活用品が、かなり出土したことがあった。

元禄5年、金森頼峯が着封した当時、上山は城がなかったので、旧城二の九付近に新しく居館を造営している。しかし、頼峯が上山城から4キロも離れたこの山中にも自己の屋敷を建てたとは考えられていない。家臣の中で金森姓を名乗る者は5名いるが、実弟金森玄番は八幡小路に居住していたし、いずれも仲丁を中心とした家中地に住んでいた。

この地に金森の居館があったと仮定するならば、分家金森左京近供が考えられる。頼峯が家督相続の時、その後見役となった金森左京近供には、元禄6年、中郷・下郷から3,000石が分知された。江戸詰であった近供自身は来藩しなかったものと思われるが、その一族郎党が上山へ来藩して、この地に住居を構えたのではないかと推定されている。

平成22年7月22日

飛騨高山
金森公顕彰会

説明板より